



長寿への生き方を学ぶ

玉小1班 水沼淳二

手元に河北新報昭和32年12月22日付の一部があります。購読者等から募集した小説が掲載される「河北よみもの文芸」の欄。これを読みたくて記念日新聞として取り寄せました。

この日の入選作品は柳澤澄子さんの「タキの貯金」。内容は『魚の加工場で働く主人公タキは貯金を何よりも楽しみにし、ついに10万円を貯めます。しかし、娘の結婚式の日取りも決まりある程度の式を挙げさせるのには、自分の貯金を使わざるを得ないと考えると、せっかく貯めたのに惜しい。』

貧しい農家に生まれた自分は結婚どころではなく一生に一度の花嫁衣裳を着なかつたことが悔やまれる。自分が出来なかつたことを娘に実現させたい。これがタキの夢だったが、お金を貯める事だけに取りつかれて、娘の結婚に対する心のゆとりをなくしていた。』と、心の葛藤を描いています。

柳澤さんは私たちの町内に住み95歳になりますが、頭脳明晰で詩吟愛好会に席を置いて難解

な詩を吟じています。膝が痛むこと以外は体調に大きな問題はなく「詩吟が楽しみ、先生に会うのがうれしい、みんなの吟じるのを聞くことが参加の意義」と話しております。「タキの貯金」は柳澤さん29歳の作品でした。

この作品が入選した時「今の望みは新しい本を次々読んで行くこと。忘れられない本はパールバッカの〈大地〉と堀辰雄の〈風たちぬ〉と、言います。

世が世であれば芥川賞や直木賞の候補作を執筆し、女流作家として塩竈市の文化発展に大きく寄与していたかもしれません。そんなことを考えると心がワクワクし気持ちも昂ります。

現代の長寿社会の中でも、特に柳澤さんのように生きていけることとは何か。考えられることは積極的な他人との対話の継続と、こよなく読書を愛して多くの本を読破、その延長線上に積極的な文章を書くという習慣が培われたこと。

体の衰えは如何ともしがたいが、心と頭の衰えは防げる技能を柳澤さんが示してくれた。……浅学非才の私が導き出した結論です。



私もシルバーの仲間入りしました

玉小1班 小幡尚志

昨年10月にシルバー人材センターに入会しました。会員の皆様と仲良くやっていきたいと思いますので、何卒宜しくお願ひいたします。

昭和34年10月10日生まれ、今年64歳になります。

昨年まで勤務していた会社とは全然仕事内容も時間帯も違いますが、慣れるまで頑張りますのでよろしくお願ひします。

趣味は麻雀でしたので、早速麻雀サークルに入会しました。



運と福と黒猫について

月見小3班 鈴木文夫

初めまして、シルバー3年生の鈴木文夫と申します。

現在駐車場の管理業務や季節ものの縄なえ等を行っております。「何か！」を書いてとの依頼を受け自己紹介でもと思いましたが、人生経験の豊富な皆様方にはつまらないと考え、我が家飼い猫と相談し「運と福・・」のお話をいたします。

多くの方は、「運や福」等と言っても関係ないとおっしゃいます。しかし、年の瀬、年末等になれば、やれ宝くじ・商店街の福引・クリスマス抽選や、果ては年賀状の当選商品と、いやおうなしに巻き込まれます。「運」とは、物事の成就の可否。

「福」とは、運の良し悪し、解りやすく例えれば某放送局の夕方に放送される「ハイアンドロー」の豪華賞品取得ゲームとなります。「運」があれば参加することができ、「福」があれば豪華賞品をもらうことができるのですが、なかなか上手くいきません。

「運」も「福」も、まるでネコのように腕の中からスルリと逃げていきます。昔から「運」も「福」も逃げるらしく、日光東照宮の「鳴き龍」で有名な陽明門横の薬師堂で販売されている鳴き龍の鈴は、「運」が逃げ落ちないように鈴の下の裂け目の穴がありません。ちなみに、2017年日光開山1250年記念限定品のゴールド鈴は金運アップとのことです。(注：今は手に入らない?)。

さて、では黒猫は？。我が家猫は「黒猫」です。雪の降る夜、子猫が勝手口でニャーと鳴いていたのを次女が拾いました。以来、この猫ちゃんは大変な苦労の末、今現在の家主(つまり私)に面倒を見てもらう大変えらい立場になったわけですが、皆様は黒猫は運が良いか福があるか！どのように思いますか？。

一般的には日本では黒猫は邪気を払い災害を防ぐとされますがヨーロッパでは災いを招くと

されます。

某NHK放送局で放送されたのでご覧の方もいると思いますが、放送法に触れないよう紹介すると、かの文豪の「夏目漱石」宅には黒猫がありました。大変な「福」の持ち主で文豪となれたのもこの猫様のおかげのようです。特に世話をしていた夫人は、この猫様があまりにも運を良くしてくれた「福ネコ」な為、この猫が亡くなった後も、飼い猫は特別に探して「黒猫」を飼い続けたとのことです。

では、どんなネコか？、夏目家の猫は「爪」まで黒い猫様ですムム・・、では我が家の猫を見るとなんと「爪」まで黒いのです。しかし、全部の爪ではない「中吉か！」、体の色はお日様の下でよく見ると真っ黒ではなく茶色系の黒「小吉か！」が、尻尾が曲がりシッポなので福を落とさないネコかも！。

いろいろ考えてもらちがないので、わたしは猫に聞きました「君は福ネコですか、運はお持ちですか！」すると我が家猫は「ニヤーゴ」と返事をしました。

その時、私はハッと気が付きました。雪降る夜に我が家勝手口でニャーと鳴いた事こそ「運と福の持ち主」な事と。

塩釜のシルバー会員皆さんにより良い日々が訪れますよう祈念し終わります。神社の縄なえをしながら腰が痛いけど、これもまた「運」と思い、日々仕事に努めている会員です。





70代になって思うこと

二小1班 渡部 恵子

若い頃には、自分が30代、40代になることは想像できても70代になることは全く想像できませんでした。毎日、時間に追われ気がつけば70才。身体の衰えを徐々に感じ、時々名前を忘れたり、的はずれなことを言ったりおかしく笑えたりするが、それもまた一興と考えて、物にこだわらず心の内の満足感を求め生活していくいいかと考へるようになりました。

シルバー人材センターに会員登録し、働くようになってから、若い頃に観たテレビドラマの事を思い出しました。

”働く”ということは人のために動くこと、人のために自分の時間を費やすこと、という言葉でした。

働けている今に感謝しつつ毎日を送っています。一生懸命働いているからこそ遊ぶことが楽しく感じられる。贅沢をしない生活をしているから美味しいものを食べると感激する。ささやかな感動、感激を積み重ね、楽しい毎日を送りたいと思います。

まだ身体も頭の中もなんとかなりそうな、これから何年間、大切な時間にしなくてはいけないと感じています。そのためには、自分の身体と心を労り、少しでも長い間健康でいられるよう努力しようと思います。

そして、会員の皆様との交流を増やし、充実した日々を送るように頑張ります。

これからもよろしくお願ひ致します。



人生いろいろ =悲しみを乗り越えて=

三小1班 山田 美津代

最近は特に季節の移ろいを足早に感じて過ごす日々です。ふり返りますと、シルバー会員スタートは平成25年7月でした。厳かな鹽竈神社の初仕事、正月用の鏡餅作り、お赤飯、おもてなし一式のお膳料理等々で大講堂いっぱいお客様を迎える大仕事にかかるわれた何年間は私にとって先輩方に指導受けながらの楽しい貴重な宝物となっています。現在継続中の個人宅への訪問は少し体が不自由なため常に緊張感をもって気分良く接することを心掛けています。

子育て支援センターでの見守りの仕事、又病院の食器洗浄、マリンゲートでイベントの手伝い、継続中の老人ホームの清掃作業、会社の清掃作業他。お陰様で年齢制限なく働く場所を多々提供して頂き、有難く感謝いっぱいです。

ここに至るまで私も人並みに人生いろいろの一つや二つありました。

あの時私の心は凍りつきました。二人で本塩釜駅から電車に飛び乗ったその後すぐ夫は喘息の発作がおき、すぐさま隣りの西塩釜駅で降り、どなたかが呼んで下さった救急車で坂病院に収

容され、懸命の治療をしていただきましたが、9日後に帰らぬ人となりました。

そして2年半後に起きた東日本大震災、浸水でやむなく家屋の解体を決め、みなしほ設住宅へ。陽のあたらないアパート生活のさなか、東京で生活していた長男が腎臓癌にかかり、東京から名取がんセンターに転院して治療に努めましたが、あっという間に天国へ逝ってしまいました。

友人から「鴨長明」の言葉を頂きました。

『ゆく川の流れは絶えずして、しかももとの水にあらず。よどみに浮かぶうたかたは、かつ消えかつ結びて、久しくとどまりたるためなし。世の中にある人とすみかと、またかくのごとし。』

お陰様で今は陽のあたる復興住宅での生活に日々喜びを感じています。

尚昨年はみなと祭りの開催でよしこの塩竈でみなさんと共に汗を流し最高の暑い夏を彩る楽しい一幕でした。

ご縁を頂き多種に渡るお仕事から気づきや喜びを受け取り学びの場となっています。職員の皆様にはその都度助けて頂き心より感謝申し上げます。これからもご指導お願いいたします。

ベトナムと塩釜をつなぎオンライン

「鯖の塩焼き」おじいちゃん、これはなんて読むの?

=宮城のおじいちゃんおばあちゃんと触れ合った技能実習生4名のその後=



三嶋伸美さん



遠藤由美子さん

株式会社Work & Care

代表取締役 三嶋伸美

ここらぼほーむTownプロジェクトマネージャー 遠藤由美子

新年あけまして、おめでとうございます。

昨年の夏、こちら「シルバーだより」様にて、宮城県の地で、塩釜市シルバー人材センターの皆様と、4名のベトナム人介護技能実習生と共にスタートいたしました「ここらぼほーむTown」の取り組みをご紹介させていただきました。

私たちは、外国人介護実習生が日本の高齢者（おじいちゃんおばあちゃん先生）との交流を通して、単なる日本語学習ではなく、その土地の文化や暮らし方を体験すること、そして、介護施設で働き始めた後も、連絡を取り合い、サポートしてもらえる関係をつくること。それが、外国人介護実習生にとって重要なことです。

一方、こうした交流やサポートを通して、高齢者の方々にとって、生きがいを感じてもらえる場になることと願っております。そこで、ここらぼほーむ Town では、「国を超えて、家族のように。」をテーマにし、入国前・入国後・実習中に3つのつながりの場を設けていきます。前回は、ひとつ目のつながりの場として、ベトナムと宮城県（塩竈・栗原）をつなぎ「オンライン Family コール」を、木村様、小松ご夫妻様に先生になっていただき「方言、折り紙、郷土料理、季節行事・お祭り・介護の仕事」をテーマに実施した様子を紹介いたしました。参画した実習生からは、「自分の国、自分の家族と離れて寂しいですが、みんな居るからこそ、家族がいるように安心感を持たせてくれました。そのおかげで、安心できて、新しい生活を楽しく迎えられました。」、「日本のこと、宮城県のこと、介護の仕事がどんどん好きになりました。」「方言は日本語をより豊かで面白くします。方言で話すと、より親しみやすく感じます。」、「介

護の仕事はご利用者さんを家族の様に大事にすることです。」など、たくさんのコメントをいただきました。

その後、4名は無事に日本に入国し、宮城県へやってくれた際に行なった「ホーム Town スティ」のイベントでは、オンラインで交流をもった木村様、小松ご夫妻様が、彼女たちを温かくお迎えくださいました。これから暮らす地域で、散策をしながら、町の文化に触れるため「塩竈神社」へお参りに行きました。その後、地域のスーパー・マーケットに食材の買い物へ。塩釜公民館にて日本の手巻き寿司とベトナムのライスペーパーに巻いて食べる料理を一緒につくり、ランチを楽しみながら交流を図りました。

最後には、実習生が作った願いが叶うお守り「ミサンガ」を先生へお贈りいたしました。「なにか本当に、家族のようです。また会いたいです。」と口々に話していました。その場に参加させていただいた私たちもお別れの際には、とてもさみしかったことを覚えています。

そして、実習生が各施設での実習にてご活躍されている今、「元気にしていますか。」「困ったことはないですか。」とオンラインにて交流する「だいじょうぶコール」の機会を持つ予定です。その際の様子はまたの機会に、ご紹介させていただけましたら、嬉しく思います。（乞うご期待ください。）

4名の実習生にとりまして、木村様、小松ご夫妻様、塩釜市シルバー人材センターの皆様とのつながりは、かけがえのない宝物のような出会いとなっているものと思います。温かいお気持ちを、いつもありがとうございます。

今年もどうぞよろしくお願ひいたします。



思い出すまま 気のつくまま

市内佐浦町 中野正護

古来、成人・還暦等の節目が尊重されております。

私自身の人生で恐縮ですが、節目の一コマを振り返ってみたいと思います。

誰でも、第一の節目としては誕生(一年目に神事)。塩釜で出生し育つ。以後の経過省く。

第二の節目は、昭和19年4月学校入学。当時は太平洋戦争、戦時体制下の真っ只中、入学式は塩釜国民学校一年生教室(公民館本町分室)で行われ、既に本校は、陸軍(護仙部隊)兵舎に徴用されていた。戦後に聞いた話では本土決戦へ、兵備のためでした。

思い出しますと同教室から時に脇の道路を上る兵隊さんの姿が見え、又、兵舎に向かう軍馬に跨り、軍刀を佩いた将校殿を目にしました。この年の12月29日早朝、宮城県内で初めて、塩釜へB29爆撃機空襲で焼夷弾投下による炎上、被災は建造物383戸延焼、死傷者13名、中心街は火の海、本町も燃え広がり、お釜神社の東側辺で火は下火となり、お釜様のお蔭だと皆さんが拌んだそうです。その頃は、私ら子供達は夜間には地元南町防空壕に居住まい、内部は寒く雨垂れを避け油紙を被って寝る常宿で、昼は小学生の寺子屋教室が、赤井銭湯の脱衣場に茶飲台を置き、先生は掛け持ちでした。

戦時中は食糧難、農家も戦地に送り、町はどん底生活に繋がり、米が底をついたときは、配給のコウリヤン(代用米)、混ぜご飯(乾燥スカンボ・海藻等)を食べたことを今でも懐かしく、芋飴は最高の食べ物でした。詫びたいこと、よそ様の栗の木をゆすって落ちた栗を拾って食べました。スミマセンでした。

次の節目は就職、高校卒業。

この年は新聞に“求職青年多し”といった記事が載るほどの就職難でした。誰でも受験可

能な試験を第二管区海上保安本部で受け2名合格し、舞鶴に在る海上保安学校に入校し、初任教育研修後、昭和31年10月、酒田海上保安部「巡視船とね」に配属され、船内居住半年、3食にベッド付、夜は当直先輩からの諸々の船内研修があり夜食も楽しみのひとつでした。

後に市内にて下宿し、酒田を勉強して楽しみました。

当時の巡視船の主な行動としては担任海域の巡視警戒・立入検査、海難救助等でした。

特異な業務は、津軽海峡浮遊機雷除去・監視等で、爆発も有り得るので緊迫。めずらしい海難は、同33年4月、酒田沖海域で突風荒天のため舵故障など13隻の同時海難で巡視船艇、陸上職員が救助したと。マスコミが大きく報道で、市民、漁協が大喝采。酒田海上保安部勤務は6年間、恙なく塩釜海上保安部に転任し船艇乗船勤務を終了し、陸上勤務となり、管理課・警救課と移り、浮草同様に管区本部の他、4部署を廻り塩釜で定年を迎えました。

海上保安庁の御旗「正義仁愛」のもと計42年間勤めました。

節目の最後、再就職は、任意団体の福利厚生部門営業所で、海上保安庁OBさんがお客様、収支はゼロの安定事業でした。

さて、世はコロナ終息を願い、物価は上昇し、年金は減額される。そして収入が限られる。高齢者は、人生の喜びを味わい、介護の不安を取り除き、生きがいのためにも、ほど良い収入とほど良い働きを望む方が多いはず。

シルバー人材センターの理念「共働・共助」は頼りであり、会員さんは定年退職後の充実したシニアライフのため働く意欲も高まり、日々充実した楽しい日々をお過ごしのことと推察しております。

配分金に消費税が入っていることをご存じでしたか？

係るインボイス制度はご存知ですか？

- ◇ 配分金は、請負契約に基づき働いた対価として支払われるお金です。
- ◇ 配分金は、所得税法上では雑所得として扱われます。
- ◇ 配分金には、内税として消費税が入っています。
- ◇ シルバー会員は、いわゆる個人事業主として仕事をしますので消費税納税義務者になります。しかしながら、消費税を納税する義務が発生するのは標準期間（2年前の1年間）における課税売上額（配分金の総額）が1,000万円以上の事業主ですので、課税売上額が1,000万円未満の事業主は納税義務が免除されます。
- ◇ シルバー会員に対する配分金については、消費税の納税義務のない免税事業者である会員に対しても、消費税を含めて支払われているので、免税事業者としての利益（益税）を享受していることになります。

ここまででは、一般的な話ですが、2023年10月1日から「適格請求書等保存方式（インボイス方式）」が導入され、消費税の取扱いが変わります。

某センターの消費税額は、配分金が仕入税額控除の対象になるため、令和元年度は148,000円でしたが、インボイス制度が導入されると、配分金が消費税の仕入れ税額控除の対象にならないため、センターの消費税の納税額がいっきに増え、10,341,000円にもなります。

このことは、センターの経営に多大な影響を及ぼすことになります。

端的に言いますと、免税業者である皆さん会員から消費税分を徴収できませんので、10,341,000円を納めるための財源がないということです。

その財源確保をどうするか、現在、全国

のセンターが右往左往している状況です。

この降って湧いたような事件は、全国のセンターの重大な問題になっており、全国シルバー人材センター事業協議会（全シ協）においては会計・経理検討委員会が設置され対応策が練られているとともに、政府や国会議員連盟に対して制度緩和措置の要望等が進められております。

いずれにしましても、経過措置が設けられ関係法律による制度実施が進められている中、全シ協において懸命な対策が講じられていますので、一縷の望みであるシルバー人材センター（SC）が適格請求等保存方式（インボイス方式）の対象から外され、現状の経理と運営の下、安定的な事業運営が可能となることを願っている次第です。

配分金に係る消費税の取扱いについて

現在、会員の皆さんのが受け取っている「配分金」には、その配分金に係る消費税が含まれています。つまり、シルバー人材センターからは、消費税も含めて支払っているということになります。

本来、会員の皆さんは個人事業主として、受け取った配分金に係る消費税は税務署に申告納税する必要がありますが、消費税法上、課税売上と

して受け取る金額が、年間1,000万円以下であるため、ほとんどの会員の皆さんは免税事業者として取り扱われ、申告納税する必要がありません。

しかし、令和5年（2023年）10月より、消費税法改正で「適格請求書等保存方式（インボイス制度）」が導入され、配分金にかかる消費税についても取り扱いが変更されます。

消費税の制度がかわります

1 インボイス制度（適格請求書等保存方式）とは？

シルバー人材センターをご利用いただいた際の請求書には当然消費税が含まれています。

就業した会員に支払われる配分金にも消費税を含んで支払いをしています。

会員一人一人は年間課税売上高1,000万以下の小規模事業者（個人事業主）となります

ので、消費税の納税は免除になっています。

令和元年10月1日より消費税が10%に引き上げられました。食料品等の軽減税率8%と2種類の税率の区分が出来たため、取引の明確をはかるため、インボイス制度（適格請求書保存方式）が設けられることになりました。

2 インボイス制度がはじまるところ

会員は今まで通り納税義務はありませんが、会員が免除となる消費税の部分を課税仕入れ等にかかる消費税額として控除することが出来なくなるため、センターに納税の義務が生じてきます。

会員の受け取る配分金に消費税が入っていても納税義務がないのは法律で決められて守られている権利ですので、そこから消費税を差し引くことは高齢者の生きがいを奪いかね

ず、得策ではありません。しかしながら、今まで控除出来ていた配分金に含まれている消費税額を控除出来なくなり、センターにその部分の消費税を支払う義務が発生すると、センターは今までなかった経費をどこからか捻出する必要が生じることになります。

これは全国のシルバー人材センターの大きな問題となっております。

河北新報2022年(令和4年)11月26日(土曜日)版

シルバー人材契約見直し

インボイスでセンター運営困難

発注者と会員 実質締結へ

政府、与党が全国に約1300カ所ある「シルバー人材センター」を介して働く人の契約形態を見直す方向で検討していることが25日、分かった。原則60歳以上に働く場所を提供するセンターは、来年10月にインボイス(適格請求書)制度が導入されると消費税負担が発生し、運営が困難になると指摘されている。センターと会員が契約を結ぶ現行の形態を、仕事の発注者と会員が実質的に結ぶ形態に変更する方向で、センターに新たな税負担は発生しなくなる。

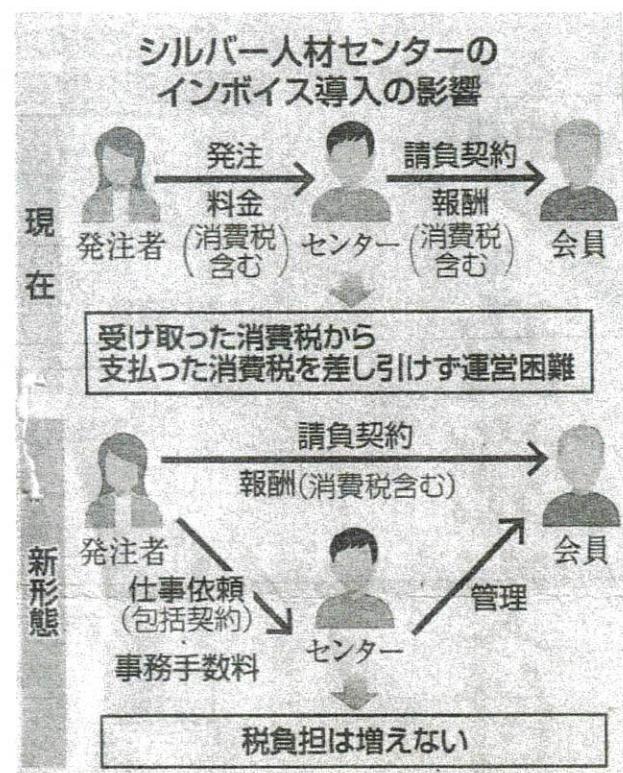
仕事の発注者に対して立場が弱く、不利な取り扱いを受ける恐れがある個人事業主らを保護するため、厚生労働省などが2023年度税制改正とは別に検討してきた。

現行制度では、シルバー人材センターは仕事の発注者である企業や自治体、家庭から業務の依頼を受け、会員と「請け負い」「委任」といった契約を結んで仕事を任せている。これを実質的に発注者と会員が契約を結ぶ形に見直す。センターは仕事のマッチングや会員の管理に専念する。見直しが実現すれば消費税の納税義務はセンターから発注者に移る。

新たな税負担を理由に発注者が会員との契約を敬遠しないよう政府は各センターに対し、発注者へ丁寧に説明し、理解を

得るよう求める方針だ。

インボイスは消費税の納税額を計算するため必要な書類で、導入後はこれがなければ諸費税を低く抑える「仕入れ税額控除」ができなくなる。センターが導入後も仕入れ税額控除を受けるためには、消費税の納税が免除されている「免税事業者」である会員が、インボイスを発行できる「課税事業者」に転換する必要がある。だが会員に税負担が発生し、現実的ではないとされてきた。



※ シルバー人材センター

高齢者雇用安定法に基づく法人で、企業や自治体、家庭から業務を受注し、原則60歳以上の就労希望者に働く場所を提供する。就労希望者はセンターの会員となり報酬も支払われる。提供される仕事は屋内外清掃や建物管理、一般事務、講師など多岐にわたる。地域活性化も目的とする。2022年3月末時点で全国に1307が設置され、会員数は68万7000人。



今年も麻雀を楽しくやりましょう！
多くの方の入会を待っています。



謹賀新年 令和五年

友の会の「麻雀サークル」は、最も活発な活動を続けています。毎週金曜日・尾島町集会所1階にて、4月～10月：午前9時～午後4時半／11月～3月：午前9時～午後4時の間行っています。会費は1ヶ月500円です。現在の会員数は佐藤竹男会長以下16名です。もちろんかけマージャンではありません。健全娯楽として会員相互の親睦を深めております。このところ新型コロナの感染拡大防止の観点から自粛しておりますが、例年一泊旅行を開催し一夜の麻雀と紅葉等各地の自然景観を楽しんでいるようです。一度会場を訪れてみてはいかがですか。きっと歓迎してくれますよ！

友の会「旅行会」楽しい思い出がいっぱいありましたね！



令和元年 大塩裏磐梯温泉「塩姫の宿：ホテル観山」：途中五色沼にも立ち寄りました！



平成28年「行者の滝」：ハイルザーム栗駒に行く途中！



平成29年 一の関「矢びつ温泉：瑞泉郷」
猊鼻渓の舟下りも楽しみましたね！

令和5年
新年号

シルバー友の会だより

発行

塩釜シルバー友の会
塩竈市尾島町 18-17
Tel 022-367-5940

今年こそ楽しい友の会に

友の会会長 小松幸雄
(二小1班)

明けましておめでとうございます。

新年を迎えまして、塩釜シルバー人材センター友の会会員の皆様におかれましては御健勝のこととご推察申し上げます。

平素より会員の皆様には友の会の事業計画にご理解ご協力を頂きまして厚く御礼申し上げます。

令和2年の初春から始まった新型コロナウイルス感染症は、なかなか終息を迎えることが出来ず、今や第8波の到来かと言われております。

このような状況下ではありますが、昨年の7月18日(海の日)の第75回塩竈みなと祭陸上パレードの「よしこの塩竈」に、シルバー人材センター友の会として参加する事が出来ました。29名の会員の方々に参加して頂き、忙しい中4回の練習日にも積極的に参加してくれ、本番のパレードではシルバー会員の元気な掛け声と踊りを市民の皆さんにお見せすることが出来た事は大変良かったと思っております。

「ウィズコロナ」という観点から、感染防止対策をしながら「一泊旅行」や「日帰り旅行」の催行について、友の会の役員会を数回にわたり実施

し検討を重ねましたが、第7波のコロナ感染者数が塩竈市をはじめ東北各県で顕著な増加傾向が続いていた為、また高齢者の感染による致死率が比較的高い数値を示していた為、誠に残念ではありましたが今年度も中止することと致しました。

友の会のサークル活動としては、麻雀、カラオケ、パソコンクラブ等、感染防止に留意しながらも活動を継続して来ております。

インフルエンザの季節とコロナ感染が重なり寒さの厳しい日が続いておりますが、友の会会員におかれましては、三密の回避や手の消毒とマスク着用等の感染防止対策をすると共に、就業に際してはくれぐれも事故を起こさないよう安全対策には充分に気を配ってください。

ロシアによるウクライナ侵攻や北朝鮮のミサイル発射など何かと世情の騒がしい日々ですが、新しい年を迎えるこの一年が、友の会会員にとって良い年となるよう願うと共に、今年こそは会員の皆様と共に旅行や懇親会を催行して親睦を深め、楽しい友の会に出来るよう切に願って止みません。

